

令和7年度 事業報告（実績と成果）

1. 総括 令和7年度は、日常的なケアサービスの提供と並行して、地域住民や他職種を巻き込んだ「障害理解と地域力向上」に注力し、大きな成果を上げました。

2. 主な実績

- **地域連携と多世代交流:** 各事業所が緊密に連携し、シームレスな在宅療養環境を提供しました。地域交流スペースを活用したイベント（防災イベント、高齢者介護予防交流、医療的ケア児とその家族の子育て作戦会議 等）には多くの地域住民や企業が参加し、応援団を地域に広げることができました。
- **家族支援と広域連携:** 「ソダテル」を通じて、小児在宅医療従事者養成研修会などを実施し、県内全域の支援スキルの底上げに貢献しました。また、情報誌の発信や家族交流会の定期開催により、当事者家族の精神的支柱となるネットワークを構築しました。香川県内全域から寄せられる相談をもとに社会資源として児童発達支援や短期入所での医療的ケア児者の受け入れ促進して社会資源の拡大につながった。
- **組織基盤の整備:** 組織規模が55名へと拡大するなかで、業務改善の端緒を開き、各事業の着実な実行に繋がりました。令和8年度以降は、外部の伴走者の知見も交えながら、さらなる組織力向上を目指します。

香川県医療的ケア児等支援センター 「ソダテル」
令和7年度報告書

【相談体制の確立】



香川県医療的ケア児等支援センター
「ソダテル」

R3相談受付件数

R3	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	1	2	6	4	6	7	13	6	12	14	9	7	87
合計	1	2	6	4	6	7	13	6	12	14	9	7	87

R4相談受付件数

R4	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	4	5	10	7	4	13	11	10	7	4	13	5	93
継続	2	4	7	4	6	9	6	10	9	6	11	14	88
合計	6	9	17	11	10	22	17	20	16	10	24	19	181

R5相談受付件数

R5	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	7	6	6	8	11	10	8	9	3	7	8	5	88
継続	6	10	6	7	9	11	12	15	11	9	8	9	113
合計	13	16	12	15	20	21	20	24	14	16	16	14	201

R6相談受付件数

R6	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	8	5	8	5	2	5	9	9	7	7	11	7	83
継続	7	12	13	10	14	11	17	11	17	12	13	13	150
合計	15	17	21	15	16	16	26	20	24	19	24	20	233

R7相談受付件数

R7	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	9	4	10	3	11	8	6	4	4	3	4	9	75
継続	13	14	15	18	15	17	22	9	13	15	18	19	188
合計	22	18	25	21	26	25	28	13	17	18	22	28	263

R7相談対応件数

		電話	メール	来所	訪問	会議	情報提供 資料作成	合計
4月	相談者	0	14	3	0	0	1	18
	関係機関	18	20	1	0	2	4	45
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
5月	相談者	3	7	18	1	0	6	35
	関係機関	39	5	1	0	0	0	45
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
6月	相談者	2	11	0	1	0	2	16
	関係機関	30	8	1	1	1	0	41
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
7月	相談者	3	13	4	3	2	4	29
	関係機関	27	4	2	1	0	0	34
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
8月	相談者	3	17	6	0	0	5	31
	関係機関	39	8	1	0	4	4	56
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
9月	相談者	7	35	3	1	2	4	52
	関係機関	42	9	0	1	0	0	52
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
10月	相談者	3	34	4	3	0	2	46
	関係機関	65	17	3	0	1	2	88
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
11月	相談者	2	20	5	5	2	1	35
	関係機関	29	26	0	0	1	0	56
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
12月	相談者	2	41	3	3	4	3	56
	関係機関	61	29	1	0	1	0	92
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
1月	相談者	6	40	3	7	2	1	59
	関係機関	60	23	0	0	0	1	84
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
2月	相談者	2	22	15	2	3	4	48
	関係機関	33	27	3	0	3	4	70
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
3月	相談者	8	32	2	6	1	7	56
	関係機関	54	11	3	1	1	1	71
	情報提供	0	0	0	0	0	0	0
合計		538	473	82	36	30	56	1215

香川県医療的ケア児等支援センター 「ソダテル」

令和7年度報告書

【人材育成】



香川県医療的ケア児等支援センター
「ソダテル」

令和7年度小児在宅医療従事者養成研修会

～気管切開児の観察と呼吸リハビリテーション～

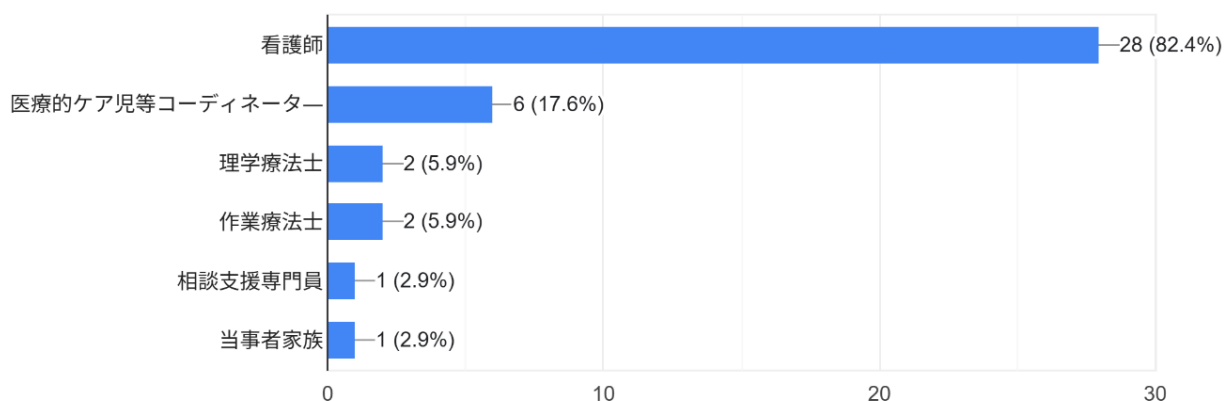
日時:2025年8月3日(日)9:30～16:00(午前、午後の二部制)

場所:香川大学医学部 スキルラボラトリー3階 アドバンスルーム1

参加人数:38人(午前、午後合わせて)

参加者の職種(複数選択可)

(参加後アンケート回答数:34名(参加者 38名:回答率 89.5%))



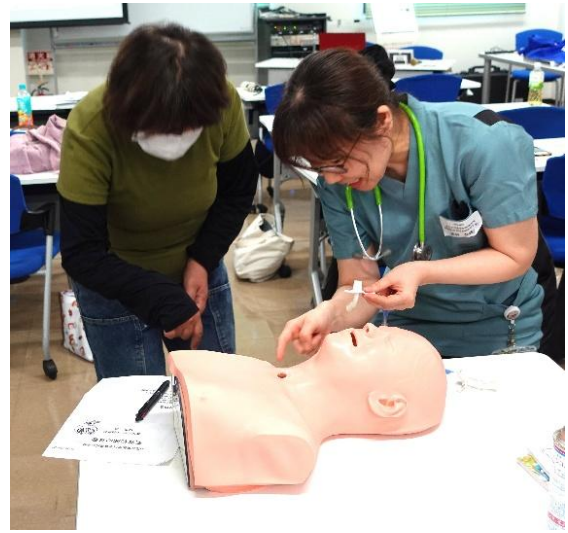
午前午後合わせて、かつアンケートに回答した参加者の内訳となる。看護師 28 名、医療的ケア児等コーディネーター 6 名、理学療法士 2 名、作業療法士 2 名、相談支援専門員 1 名、当事者家族 1 名(当事者 1 名)の参加となった。

2025年8月3日(日)に、「令和7年度小児在宅医療従事者養成研修会～気管切開児の観察と呼吸リハビリテーション～」を開催し、医療的ケア児等コーディネーターの資格を持つ者を含む訪問看護ステーションや児童発達支援/放課後等デイサービスの看護師、学校看護師、理学療法士らが参加した。

香川大学医学部附属病院 小児外科 田中彩医師や、かがわ総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部の伊藤康弘理学療法士/主任による、気管切開児の観察や小児呼吸リハビリテーションに関する講義が行われた。その後、モデル人形を用いた気管切開児のカニューレ交換演習や、実際の子どもや参加者同士での呼吸リハビリテーション演習を行った。カニューレ交換の演習では、特定行為研修センター 前田奈緒美看護師長も講師として参加者たちに演習を行った。

参加者からは「講義を聞いた上で実技を行ったが、力の入れ方や方向などやってみると難しかった。その場で先生が手を添えてくださり理解できた」、「気管カニューレ交換における誤挿入の怖さや、人形での実践で、交換方法がイメージしやすくよく分かりました」、「職場でも使える内容でとても良かったです」との意見が見られた。

どちらの演習も、実際の演習ではなかなかスムーズに行えないことに気付き、自身がつまづくポイントで指導を受けられるなど、貴重な演習経験を積む機会となった。



第4回 医療的ケア児等の退院支援・フォロー事例を通して意見交換会

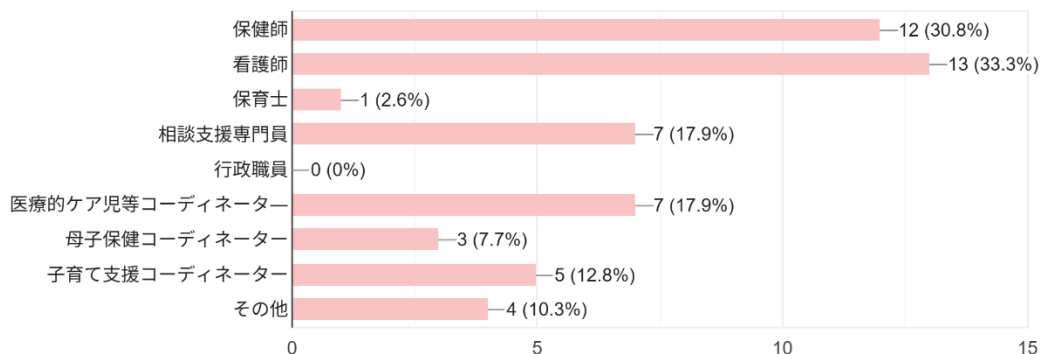
日時:2025年9月19日(金) 14時~17時

場所:かがわ総合リハビリテーション福祉センター

参加人数:40名

参加者の職種(複数選択可)

(参加後アンケート回答数:39名(参加者 40名:回答率 97.5%))



看護師が13名、保健師が12名、相談支援専門員が7名、保育士が1名の参加であった。また、医療的ケア児コーディネーターは7名、母子保健コーディネーター3名、子育て支援コーディネーター5名であった。「その他」には、医師、医療ソーシャルワーカー、子育て支援員、看護専門学校(所属)、社会福祉士の回答があった。

2025年9月19日(金)に、「第4回 医療的ケア児等の退院支援・フォロー事例を通して意見交換会」を開催し、保健師、看護師、相談支援専門員、医師、医療的ケア児等コーディネーター、子育て支援コーディネーターらが参加した。香川大学医学部附属病院と四国こどもとおとなの医療センターから、医療的ケア児の入院時・再入院時における病院側の支援について発表があった後、高松市健康づくり推進課より、医療的ケア児が退院後に行政が行う支援について発表が行われた。グループワークでは他職種の参加者が医療的ケア児に行っている支援について情報交換・関係づくりを行いながら、医療的ケア児支援についてできることについて話し合いを行った。グループワーク後の発表では、各参加者が医療的ケア児に行っているサービスについての情報共有も行いながら、新たな支援の連携のきっかけになり得る時間となった。

参加者からは「病院と地域と顔の見える関係作りを強化して、今後の支援に繋げたい(看護師)」、「普段関わらない方と話が出来て、各職種が何を大事にしているのか、何を目標にしているのか、どのような役割を担っているかがよくわかりました(相談支援専門員)」、「兄弟児や親御さんのレスパイト等それぞれがどの制度を使えば良いか等意見交換できて参考になった。体験している方からの成功体験は声かけ方法や動き方を学べた(保健師)」、「医療的ケア児の入院から退院にむけての病院での取り組みを知れたり、そこでの課題感や地域に移行してからの課題なども共有でき、コーディネーターとして何が出来るかを考える時間になった。また、新しい繋がりもできた(子育て支援コーディネーター)」等といった声が見られた。

医療・福祉・地域との連携できる機会づくりと、当事者との関わりの機会を持てるような試みも今後検討していく。



令和7年度 医療的ケア児支援体制構築にかかる担当者合同会議

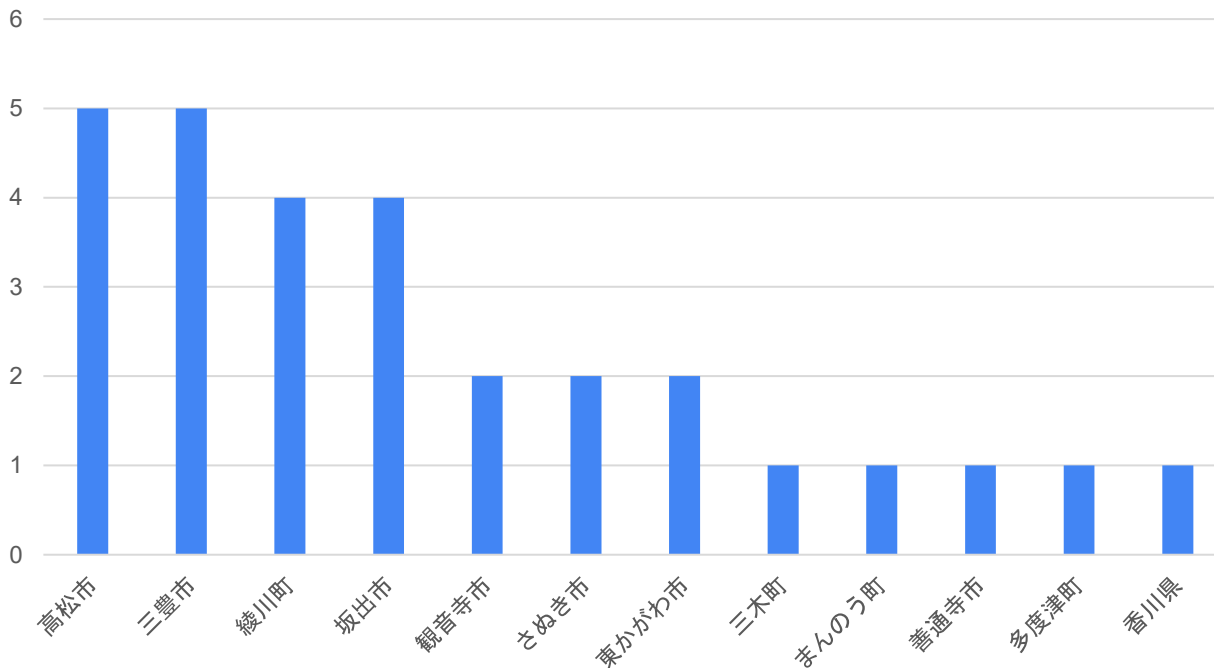
日時:2025年10月31日(金)13時30分~16時

場所:かがわ総合リハビリテーション福祉センター 第1・2研修室

参加者:29名

参加者の所属自治体

市町別参加者数(人)



今回参加していない市町は琴平町、宇多津町、直島町、小豆島町、土庄町、さぬき市、丸亀市であった。参加予定だったが当日欠席となった自治体は、香川県と三豊市であり、参加していない自治体は参加申込みされていない。

参加者の所属課について

(それぞれの部・課の名称が微妙にほぼ全て異なるため、グラフ化はせず回答文そのままを記述した)

香川県子ども家庭課

健康福祉部(保育幼稚園課、国保・健康課、こども家庭課、障害福祉課、ふくし課)

市民部(福祉課、こども家庭課)

健康づくり推進課、健康増進課、健康福祉課、けんこう課、こども課

社会福祉課(障害者福祉係)、福祉介護課

高松市総合教育センター 支援係、教育委員会 学校教育課、

高松市障がい者基幹相談支援センター

相談支援事業所

看護療育部 こども発達支援センター

2025年10月31日(金)に、「令和7年度 医療的ケア児支援体制構築にかかる担当者合同会議」を行った。今回は孤立を防ぐ子育て支援をテーマとし、障害福祉、母子保健、子育て支援、教育保育など各分野の担当者が参加した。

前半の取り組み報告では、香川県健康福祉部障害福祉課 岡課長補佐より、「香川県医療的ケア児一時預かり制度」について、また香川県健康福祉部子ども政策推進局 藪根子ども政策課課長補佐より「香川県における子育て支援拠点について」と題した発表があった。実際の子育て支援について、認定NPO法人わははネットの太田理事と認定NPO法人子育てネットくすくすの草薙理事長より、それぞれにおける子育て支援の取り組みが発表された。

その後、各市町に分かれて、「医療的ケア児養育者の孤立・孤独を防ぐために」をテーマにグループにてディスカッションを行った。取り組み発表も含めて、参加者は今まで知らなかった現場での子育て支援や、他自治体の取り組みなどを知り、繋がりを作ることができていた。

参加者からは「わははさんやくすくすさんについてほとんど知らなかったので、(子育て支援)活動の内容を知ることができ、日々の業務で必要な際に繋ぐことのできる機関が増えたと思います」、「ほかがどんなことをしているか知らないと繋げないので、こういう会は大事だと思います」「医療的ケア児の担当になり、何が自分にできるのかと思っていました。家族の話を聞いたり、関係部署と連携をとったりと出来ることを少しずつ取り組んでいけたらと思いました」、「児や家族の幸せや希望は何かと考えながら動いていきたいです」、「学校教育課として、学校と情報共有したり、保護者の願いや要望を把握したりするなど、適切な対応ができるようにしていきたいです。校内の全教員で共通理解を図ることや、ニーズに応じた支援計画をきちんと立てることを学校側に伝えていこうと思いました」、等といった意見が見られた。

今後も当事者の声や現場で支える様々な支援者の現状、他自治体・他課同士で顔の見える関係を作り、支援にあたる方々が少しでも安心して支援を繋いでいけるように合同会議・研修会等を行っていく。



令和7年度 医療的ケア児等コーディネーター フォローアップ研修【東讃】

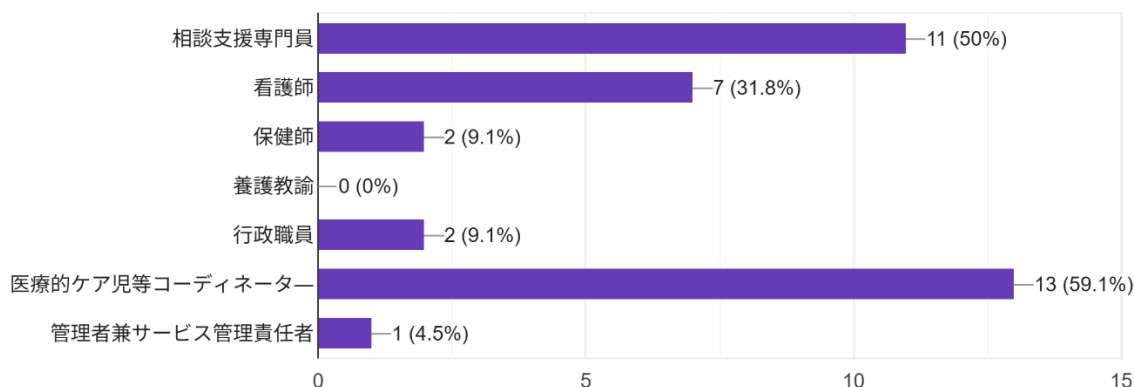
日時:2025年12月8日(月) 13時30分~16時30分

場所:かがわ総合リハビリテーション福祉センター 第1・2研修室

参加人数:22名

参加者の職種(複数選択可)

(参加後アンケート回答数:22名(参加者 22名:回答率 100%))



アンケート回答者は、相談支援専門員が11名、看護師が7名、保健師が2名、行政職員が2名であった。また、管理者兼サービス管理責任者が1名参加していた。医療的ケア児等コーディネーターの資格があると回答した参加者は全体の59.1%と6割程度であるが、実際にはコーディネーターの資格を持っていない参加者もいた。

2025年12月8日(月)に、「令和7年度 医療的ケア児等コーディネーター フォローアップ研修【東讃】」を開催し、医療的ケア児等コーディネーターを持つ相談支援専門員、看護師、保健師らが参加した。今年は東讃と西讃に分けてフォローアップ研修を開催予定で、東讃で行った対面講義を録画し西讃の研修に使用予定である。今年も東京都世田谷区医療的ケア相談支援センターHi・na・ta(ひなた)の等々力寿純氏を講師に迎え、医療的ケア児等コーディネーターの役割等基本的な内容について改めて学ぶ機会となった。

グループワークでは医療的ケア児の事例をもとに、参加者が日頃感じている医療的ケア児支援の難しさや、医療的ケア児のコーディネート状況について情報共有・交換を行い、横のつながり作りを行っていた。今回は高松圏域の医療ケア部会を中心に参加者を募り、研修内容の検討を行い、会を進めていった。

参加者からは、「講義もそうですが、他機関の話も聞けて参考になりました。特別なコトは考えず普段のように相談に応じていけたらと思います(相談支援専門員)」、「参加者同士が分からないこと、困っていることも素直に話せた。地域課題に繋がるようなことも出てきて参考になった(相談支援専門員)」、「参加している方たちも医療的ケアコーディネーターと名乗ることに不安があることが分かり、同じ気持ちを共有できてよかった(看護師)」、「立場上あまり医療的ケア児の方と直接的に対応することはあまり無いが、相談支援専門員をはじめ様々な機関と連携し、より良い支援に繋げていきたい(行政職員)」といった意見が見られた。

フォローアップ研修として必要な内容を検討しながら、今後も開催していく。



令和7年度 医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修

【オンデマンド研修】

視聴期間:令和7年10月6日(月)~11月23日(日) (オンライン動画 URL・期間限定公開)

【支援者対面研修】

開催日時:2025年12月9日(火)(参加者が多かったため午前・午後の二部に分けて開催)

【コーディネーター対面研修】

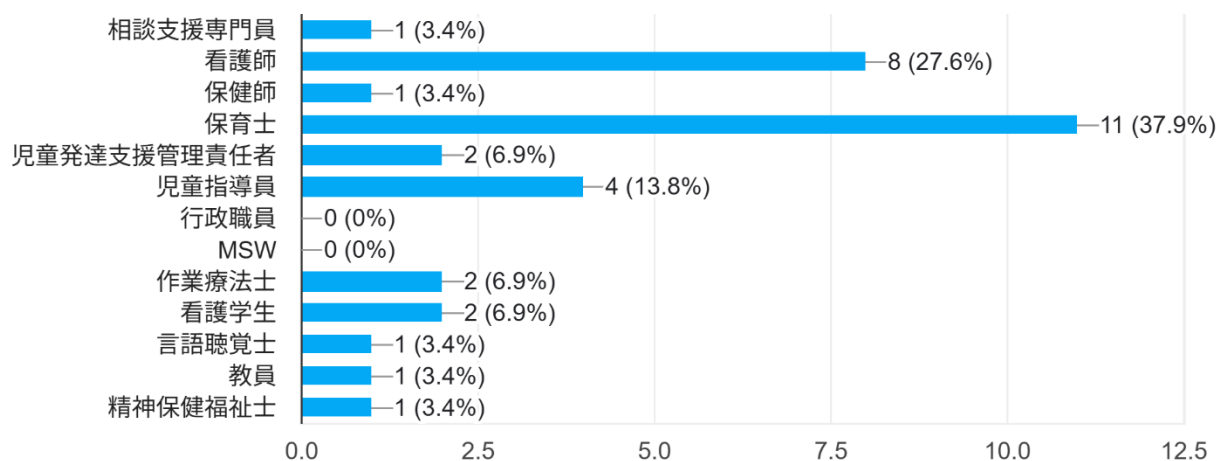
開催日時:2025年12月9日(火)・10日(水) 9:30~17:30

上記開催場所:かがわ総合リハビリテーションセンター 2階第1・2研修室

参加者の職種(複数回答可)

支援者 対面研修

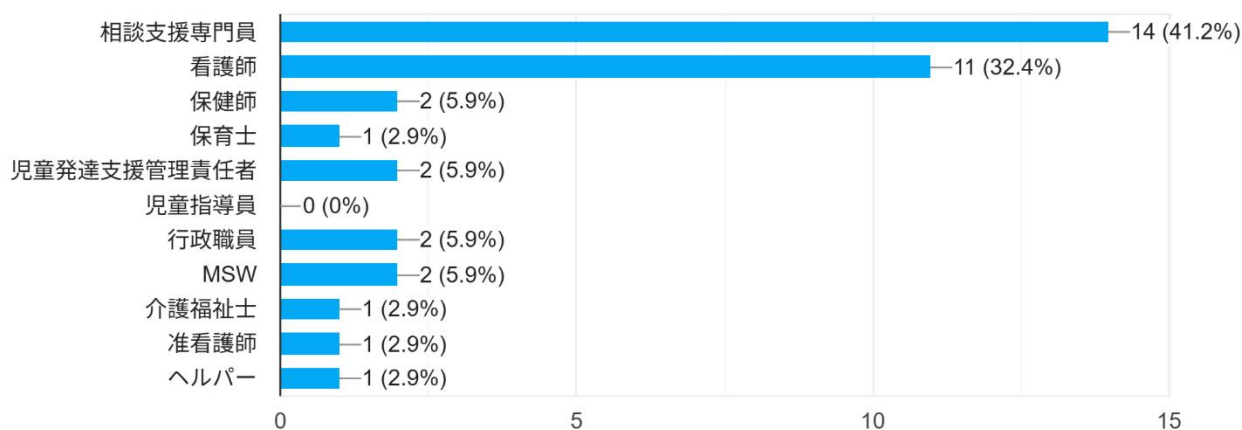
受講者 28名、回答 29名(同じ参加者が2回回答を送信した可能性がある)、回収率 100%



参加者はほぼ保育士と看護師、児童指導員であった。その他は相談支援専門員、保健師、児童発達管理責任者、作業療法士、看護学生、言語聴覚士、教員、精神保健福祉士と幅広い参加者が見られたが、今後医療的ケア児者が地域で生活していく上で重要な支援者が多く参加していた。

コーディネーター 対面研修

受講者 34名、回答 34名、回収率 100%



昨年は看護師の参加が一番多く、次いで相談支援専門員の参加が多かったが、今年は相談支援専門員の参加が一番多く、看護師の参加が次いで多い参加率となった。今年から座学部分をオンデマンドに変更したことで、対面研修の期間が4日間から2日間に短縮した。そのため、医療的ケア児の支援経験が豊富だがまとまった研修日数を確保するのが困難であった相談支援専門員らの参加があり、今回の参加率に影響した可能性がある。医療的ケア児支援に関わる他職種の参加も、種類として昨年に比べて増加している。

令和7年度 医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修を開催し、相談支援専門員、看護師、保育士、行政関係者、その他医療福祉関係者らが参加した。

今年度より共通講義はオンデマンド研修とし、受講者は動画視聴を行った上で対面研修に臨んだ。オンデマンド研修は、各受講者の視聴環境やネットリテラシーレベルに応じた受講の難しさ等もあったが、多くは問題なく視聴できていた。既に明示している受講方法についての問い合わせも多かったため、次年度に向けて対策を講じていく。

支援者研修では、地域ネットワークづくりの一助として対面研修も取り入れ、「ソダテル」センター長の英より医療的ケア児の支援の実際や事例を挙げ、仲間づくりに繋がるようなグループワークを行った。医療的ケア児者に関わっている支援者・まだ関わっていない支援者らが集まり、和やかな雰囲気の中で研修が終了した。

コーディネーター養成研修では、今年度初めて社会福祉法人びわこ学園の「滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターこあゆ」より、増野隼人氏を講師に迎えて研修を開催した。

医療的ケア児の支援計画作成について、主にインテークとアセスメントに重点を置いた講義が行われ、事例をもとに個人演習・グループでのディスカッションを組み合わせ、支援計画作成について学習が進められた。演習内で使用した事例にもとづいて、担当者会議のロールプレイを受講者自身が体験し、担当者会議を経験したことがある受講者・ない受講者ともに多くの学びを得ていた。また、在宅医療を行う現場について取材された動画や、事例のもととなるモデルについての動画が流され、医ケア児者支援のイメージづくりの助けとなっていた。

医療や医療的ケア児にハードルを感じていた受講者も多かったが、参加しやすい雰囲気の講義の中で次第にリラックスし、ファシリテーターの助けもあり、少しずつ醸成される連帯感の中で、グループワーク等笑顔で様々な意見交換を行うことができていた。それぞれの専門性を持った受講者同士が繋がり、今後のネットワークづくりの一助となることが期待される。今回の受講者たちが継続して資質向上と関係継続・構築を行っていけるよう、今後の研修も適宜案内していく。





令和7年度 小児在宅医療従事者養成研修会～医療的ケア児者の胃ろう管理と栄養～

日時:2026年1月6日(火)13:00～16:00

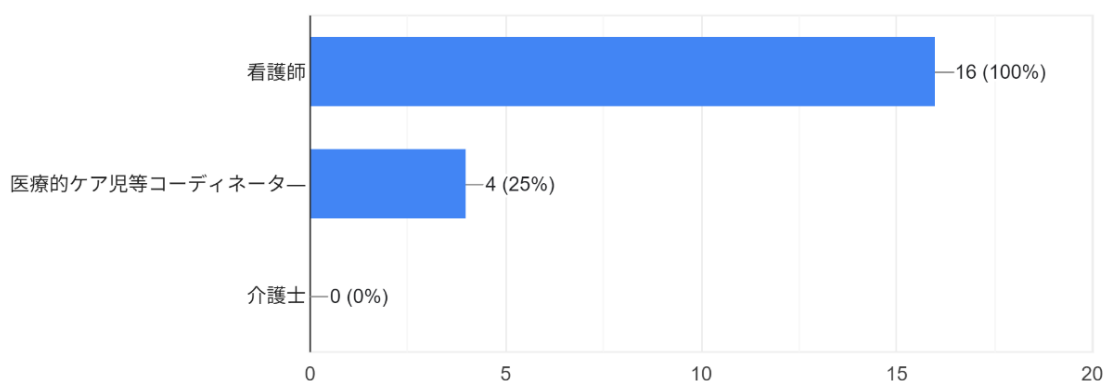
場所:独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター

4階 スキルアップラボ室

参加人数:16人

参加者の職種(複数回答可)

アンケート回答数:34 (参加者 38名、回答率 89.5%)



参加者は全員看護師であり、うち4名は医療的ケア児等コーディネーターであった。

2026年1月6日(火)に、「令和7年度小児在宅医療従事者養成研修会～医療的ケア児者の胃ろう管理と栄養～」を開催し、特別支援学校や地域の学校、児童発達支援・放課後等デイサービスなどの看護師らが参加した。

四国こどもとおとなの医療センター 小児外科医長 浅井武医師や、山本潤看護師、坂根良和管理栄養室長らによる医療的ケア児者の胃ろうや栄養に関する講義が行われた。その後、倉本一恵看護師、渡辺旭代看護師らとともにモデル人形を用いた胃ろう交換の演習と、日頃の医療的ケア児支援に関する悩み別に分かれたグループワークを行った。

受講者からは「病院勤めの時は成人が多く、胃ろうも見ていたが子どもに関わるところに変わった時に胃ろう管理の難しさに悩んでいたもので、講義を聞いた上に胃ろう交換や抜けた時の対策を実際に行うことができ自信が少しつき良かったです」、「栄養剤についてもたくさんの種類があることを知ることができ良かったです」、「ほかの事業者さんや学校さんでの困りごとやこういうふうに行っているということが共有でき、とても参考になりました」等といった声が見られた。

講義と演習、グループワークを組み合わせる中で、日頃少人数で医療的ケア児支援にあたっている受講者らは様々な不安や疑問を共有し、講師に質問し学びや精神的サポートを得ていた。こういった研修の場を通して他機関同士がつながり、支援のネットワークや質が強化されることが期待される。



「令和7年度 医療的ケア児等コーディネーター フォローアップ研修【西讃】」

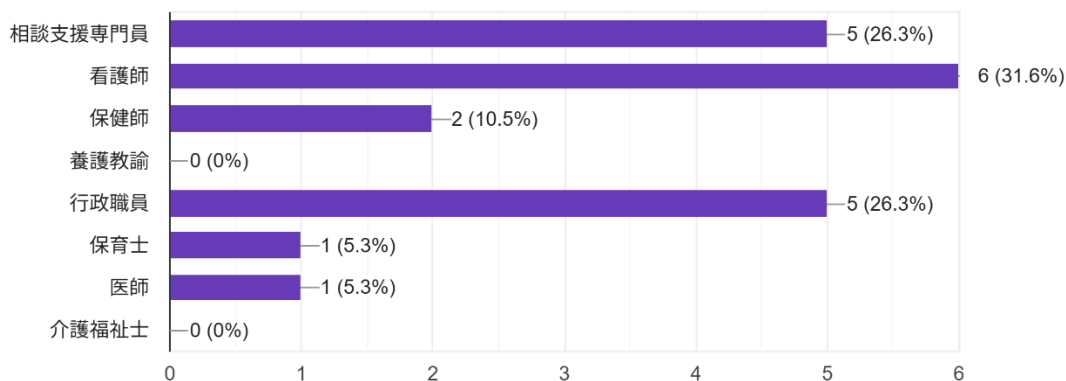
開催日時:2026年3月5日(木) 13時30分~16時30分

開催場所:琴平町総合センター 大ホール

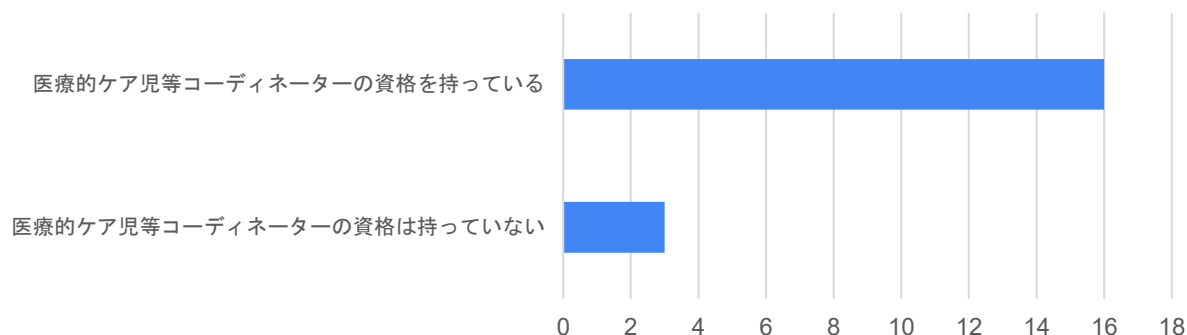
参加人数: 19名

参加者の職種(複数回答可)

アンケート回答数:19 (参加者 19名、回答率 100%)



医療的ケア児コーディネーターの資格の有無について



アンケート回答者は、相談支援専門員が5名、看護師が6名、保健師が2名、行政職員が5名であった。また、保育士、医師がそれぞれ1名参加していた。医療的ケア児等コーディネーター資格保持者は84.2%、持っていない参加者は15.8%であった。

2026年3月5日(木)に、「令和7年度 医療的ケア児等コーディネーター フォローアップ研修【西讃】」を開催し、医療的ケア児等コーディネーターを持つ相談支援専門員、看護師、保健師、行政職員らが参加した。今年は昨年12月に東讃、今回の西讃とに分けてフォローアップ研修を開催した。東讃フォローアップ研修での東京都世田谷区医療的ケア相談支援センターHi・na・ta(ひなた)の等々力寿純氏の講義動画を事前視聴したあと、本研修でグループワーク等を行い、その後のまとめ動画を会場で視聴した。

参加者からは「色々な職種でのグループワークだったので、自分とは違う視点でのお話が聞けてよかったです(相談支援専門員)」、「皆さん同じような悩みを抱えておりそれに向かってどのような工夫をしているかも知れて良かった(看護師)」、「行政の立場でできることを考える機会にもなりました(保健師)」、「地域の資

源について知ることでもでき、何より医療的ケア児支援をされている方々と直接お話でき、とても勉強になった(行政職員)」といった声が見られた。

グループワークでは医療的ケア児の事例をもとに、各所属先や立場としてできることなどを検討・紹介しあい、また、各グループの発表時にはそれぞれの事業所紹介も行われ、参加者が西讃地域における社会資源を互いに知り、繋がるための貴重な機会となった。

アンケート結果からも、多職種が交じり合うことで異なる視点を得られたという好評の声が多く寄せられており、今回の研修が西讃地域における医療的ケア児支援の輪をさらに広げ、強固にしていく一助となることが期待される。



香川県医療的ケア児等支援センター 「ソダテル」

令和7年度報告書

【地域づくり】



香川県医療的ケア児等支援センター
「ソダテル」

令和7年度 第3回 四国四県医療的ケア児支援センター情報共有会

日時:2025年4月23日(水)10:30~12:30 13:30~15:30

場所:愛媛県四国中央市 霧の森交湯~館 2階研修室

参加者:徳島県医療的ケア児等支援センター 渡部、島谷

愛媛県医療的ケア児支援センター 安藤、森山(司会)、齊郷、大丸

高知県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター きぼうのわ 林

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」 英、岡上、酒井、鈴木

1. 医ケアセンター運営に関する事前質問に基づく情報共有

1)徳島より

(1)医療的ケア児者の支援者を対象とした研修の実施状況と内容

(2)支援者を対象とした研修を実施しての課題

(3)医療的ケア児等コーディネーターの役割について どのくらいの方が、どのように活動されているか、医ケアとの連携等

愛媛:支援者・コーディネーター・フォローアップ研修実施、訪問看護協会がやっていたが、今年より障害福祉課へ移行。去年は支援者 200~300 人受講、コーディネーター研修は2年に1回 30 名程度で市町からの推薦者のみが受講できる、その後フォローアップ研修実施。コーディネーターがいない市町もあり、医ケア児をみる病院がない市町もある。コーディネーターとしての役割が曖昧。今年のフォローアップのテーマは災害。相談支援専門員対象の情報交換会あり。

基幹はないが、委託事業所はあり。

徳島:フォローアップ研修では実践報告を検討、事業所に持ち帰って支援につなげている。病院関係とコーディネーターに周知して募集している。医ケア児 87 人

香川:圏域ごとに基幹があり、コーディネーターが配置されている。地域によっては事業所委託している。

高知:高知市が基幹の役割を直営でしている。コーディネーターとして実働は0。コーディネーター研修は県が実施、月に1回障害福祉課とミーティングしており市町へのヒアリングで医ケア児把握、県が市町に名前なしで名簿提出してもらい、高知市以外の市町に出向いて聞き取りを行っている。18歳以下約 110 名のうち半数は高知市内在住。

2)香川より

(1)センターと家族会の連携はどのようにとっているか。

徳島:ケアライン・重心の会など独立してやってもらっているが、センターとしては繋がっており、イベントなど会長に情報流している。バリフリ BOX イベントが年1回あり、徳島赤十字ひのみね医療療育センターが協賛しておりブースを担当。家族会に入らなくてもネットワークがありつながっている。年度初めに障害福祉課が開く有識者会議があり、センターからも事業報告、会には医師会・行政各・小児科教授・訪看・社協・家族会代表(当事者)が出ており、課題抽出している。当事者の方に思いを語ってもらう場を用意し、生の声を聞いてもらい声を吸い上げることが大事。

7月に大阪の望月先生を呼んでハイブリッドシンポジウムを企画している。

愛媛:まもる会の岩井さんがまとめてくれて、障害福祉課へ直接言ってくれている。LINE グループでつながっている会や「ばくばくの会」などある。

高知:センターと家族会は関係していない。それぞれで活動しており、課題が出ると障害福祉課へあがってくる。

3)高知より

(1)特別支援学校の学校看護師と主治医間において、学校側から、定期的に医療的ケア児に関する報告書などを提出しているか。また、報告書の様式はあるか。

高知:地域の学校看護師、特別支援学校、報告書を出すところと出さないところがある。

香川:ガイドラインがあるのでそれに添って報告書を出している。3カ月に1回出すところや、学期に1回出すところなど、全部が統一はされていない。様式も違っている。

愛媛:文科省にフローチャートが出ている。主治医が学校から遠いと学校医と連携して指示を出すことがある。

徳島:学校が報告書は不要であると言っている。

2. その他

災害デイキャンプの案内

→徳島 5/24(土) 今年の外でやるが、来年は支援学校の体育館を予定。

情報共有会の経費の取り扱い

→会場費などを四県で割って当日支払い、担当県より領収書をだす。

3. 次回情報共有会 担当:高知県



令和7年度 医療的ケア児等家族交流会 ミキサー食調理実習会

日時:2025年4月27日(日)

場所:高松市仏生山交流センター ふらっと仏生山 調理室

参加人数:

・当事者家族:4組(うち1組は調理実習担当者)

大人(保護者など):4名

医ケア児:4名

きょうだい児:2名

・スタッフ側

ボランティア:12名

関係者:12名

【総合計:34名】

2025年4月27日(日)に、「令和7年度 医療的ケア児等家族交流会」にて、香川大学医学部附属病院 臨床栄養部 北岡陸男栄養士長と、濱野由衣管理栄養士による、胃ろう児者の栄養についての講義が行われた。その後当事者家族による胃ろうミキサー食の調理実習を参加者とともにに行い、ブレンダーやミキサーを使用して、市販のお弁当を手軽にペーストにした。スベラカーゼ、宮源の酵素パウダーを用いて、ご飯のペーストを作ってシリンジでの吸いやすさの比較なども行った。調理したミキサー食は、実際に当事者・支援者で試食したり、医療的ケア児に注入したりしながら日頃の悩みなどを話し合うことができた。

参加者からは「今回の交流会で新しい調理法や酵素を使った材料に出会えて本当に参加してよかった」、「スベラカーゼや宮源(の酵素パウダー)には本当にびっくり！なめらかでシリンジの使用本数も抑えられそうです」、「イベント時などのペースト食も、見た目で見やすくなるような工夫をしてあげたいと思いました」等の声が見られた。

胃ろうをもつご家族の参加であったが、それぞれメインで使っている調理器具がブレンダーであったりミキサーであったり、行っている工夫も様々であった。お互いの工夫や知識を参加者同士でも共有しており、少人数での開催ではあったが、有意義なイベントとなった。ボランティアや支援者の方も運営側で協力してもらい、当事者の現状が分かる会となった。



令和7年度 医療的ケア児等家族交流会 家族で楽しむ Mooovi の休日

日時:2025年6月28日(土)

場所:BOAT KIDS PARK Mooovi コミュニティパーク グルーン まるがめ内

参加人数:

<参加側>

申込家族:19組(参加18組70名)

<スタッフ側>

スタッフ、ボランティアなど38名

【総合計:128名+α】

2025年6月28日(土)に、「令和7年度医療的ケア児等家族交流会 家族で楽しむ Mooovi の休日」を開催した。BOAT KIDS PARK Mooovi は、感覚遊びを楽しむ赤ちゃんから、全身を使って遊ぶお子様まで、様々な子どもたちが保護者の方と一緒に遊び、発達段階に合わせて安全に楽しめる施設となっている。来場者たちは、家族で来場し、皆で一緒に大きな遊具やボーンレンドのおもちゃ等で楽しんでいた。保護者同士も、同じ医療的ケア児の保護者としてお互い情報交換や交流を行う様子が見られた。

開催にあたっては、笹川保健財団、ボートレースまるがめ、あそびの援助を行ったボーンレンドのスタッフ、香川大学医学部看護学科の教員、看護学生ボランティア、有志の看護師ボランティアらで協力して行った。途中、香川大学医学部附属病院キャラクターのくーちゃん、まるがめボートのマスコットキャラクタースマイル君も会場に訪れ、子ども達と触れ合っていた。

多くの家族が「貸し切りでスタッフが大勢いたため、安心して過ごせた」と評価していた。貸し切りであったことは、健常児が走り回る環境における心配や、周りからの目を気にせず施設を楽しめる上で重要であった。また家族をサポートするスタッフが多かったのも、きょうだい児全員までは手が回らない家族や、医療的ケア児を連れて行くことに不安のある家族にとって安心材料となった。

一方で、関わる人数や大人が多い会場は「落ち着かない」という声もあったため、会場で落ち着いて過ごしてもらうという点では今後の課題となった。



令和7年度 医療的ケア児者の防災を考える 備えあれば憂いなし！ Part4

日時:2025年11月1日(土) 13時30分~16時

場所:トヨタカローラ香川株式会社 国分寺店

参加人数:18名(当事者2名(3家族7名)、支援者9名)

(その他運営側 15名ほど 参加者・運営側合わせて30名ほど)

2025年11月1日(土)に、「令和7年度 医療的ケア児者の防災を考える 備えあれば憂いなし！ Part4」をトヨタカローラ香川株式会社 国分寺店にて開催し、医療的ケア児当事者・当事者家族や、各分野の支援者(医療、福祉、行政、教育等関係者)らが参加した。

トヨタカローラ香川の濱元氏より、給電車を利用した医療機器の給電デモンストレーションを行った後、各家族(に関わる支援者)のブースに分かれて、防災に関する相談会を行った。相談会では四国こどもとおとなの医療センター 白川臨床工学技士長と、香川大学医学部附属病院 中山臨床工学技士、またトヨタカローラ香川 濱元氏から、医療機器や給電に関する情報提供や各家族に応じた相談に乗り、医療的ケア児の防災について様々な対策を考える会となった。最後に当事者家族の車にて、車中避難を想定したシートアレンジを行い、医療的ケア児者が車内で過ごす工夫などについて支援者を交えてイメージした。会場には災害に役立つ蓄電池や防災グッズ、各種医療機器が展示され、参加者は災害時の利用を含めてトヨタカローラ香川のスタッフや臨床工学技士から詳しい説明を聞くことができた。

参加者からは「すごく楽しかったです！シートアレンジもいざという時にすぐにできそうだ！と思いました(当事者家族)」、「臨床工学技士さんとお話をすることがなかったので、機械のことを詳しく聞く機会がありとてもよかったです(当事者家族)」、「ご家族のお話を一緒に聞けたことも、想いや心配事が知れてよかった(行政職員)」、「給電車が行政にあると災害時にいいかと思いました。ポータブルバッテリー(蓄電池)の購入時に補助が出ると助かります(当事者家族)」といった声が見られた。

イベントには、トヨタカローラ香川株式会社、トヨタモビリティパーツ株式会社、香川大学医学部附属病院、四国こどもとおとなの医療センターが協力し、多くの当事者・当事者家族、支援者らが医療的ケア児者の防災について考える一日となった。



第4回 県境なき医ケアセンター情報共有会「ならシカない! 大ぶつぶつぶ語り合おう!」

IN 奈良県の巻

日時: 2025年11月14日(金) 13:30~17:30

場所: 社会福祉法人 東大寺福祉事業団

東大寺福祉療育病院、奈良親子レスパイトハウス(奈良県)

目的: 県を跨いだセンター間の取り組み・課題共有、現場レベルでの「顔の見える関係」構築

参加者: 奈良、大阪、徳島、香川(ソダテル)、京都、和歌山、滋賀の各医療的ケア児支援センター
および行政担当者

1. 施設見学:東大寺福祉療育病院

会議に先立ち、病院見学を実施した。奈良県独自の、寺院やPT室を活用した日帰り預かり(レスパイト)の取り組み等が紹介された。

2. 情報共有会(お題でポン!形式)

その後、「奈良親子レスパイトハウス」に会場を移し、情報共有会を行った。各センターから提出された話題をランダム抽出し、自由討論を実施した。

本会では、医療的ケア児支援をめぐる各都道府県の取組と課題について情報共有が行われた。市町村連携では、部会参加や基幹相談支援センターとの情報共有、各市町村訪問や台帳整備の伴走支援、好事例の横展開など、県が後方支援を担うことで連携が進展した事例が報告された。一方で市町村間の温度差や支援格差も課題として挙げられた。研修に関しては、コーディネーター養成後の役割不明確や実働不足も共通課題であり、配置の予算化、スーパーバイズ体制の構築、名簿公表による可視化などの工夫が共有された。フォローアップ研修では、圏域単位の自主開催、実践報告や災害対応をテーマとしたグループワーク、動画活用など、多様な取組が展開されている。「動く医療的ケア児」や強度行動障害児の受入れ困難、看取り期の受け皿不足も深刻であり、病院間の役割分担、特別受入れへの財政支援、広域連携などの対応が検討されている。短期入所(レスパイト)については、人的負担の大きさから受入れが進まず、補助金制度の創設、老健施設の活用、ナーシングホームの機能強化、空床情報の共有等の対策が紹介された。

3. 次回開催について

- 第5回: 2026年2月13日(金) 15:00~(ZOOM開催予定)
- 第6回: 2026年予定(徳島県)



第5回 県境なき医ケアセンター情報共有会

日時:2026年2月13日(金)15:00~17:00

場所:zoom会議

目的: 県を跨いだセンター間の取り組み・課題共有、現場レベルでの「顔の見える関係」構築

参加者:大阪府、香川県、京都府、熊本県、東京都世田谷区、徳島県、奈良県、和歌山県、滋賀県の医療的ケア児等支援センターおよび一部行政担当者

1. 自己紹介

各県で自己紹介を行い、新たに東京都世田谷区、熊本県が仲間入りしたことが共有された。

2. 議題と検討内容

本会では、医療的ケア児支援センターの運営体制、移行期医療、教育現場の受入体制等について意見交換が行われた。

まず、センター運営に関しては、相談の一極集中や「便利屋化」により職員のバーンアウトが懸念されていることが共有された。背景には地域支援体制の未成熟があり、行政のみでは解決困難な要望までセンターが抱え込む構造がある。これに対し、地域ネットワークとの連携強化や、市町村・関係課へ積極的に出向いて個別案件を地域課題として共有し主体的対応を促す取組、センターは直接支援を抱えず「つなぐ」役割に特化する方針などが報告された。圏域ごとの協議会や保健師ネットワークが機能している地域では、支援者からの相談を中心とする体制が構築されており、県は後方支援に徹しつつ市町村のコーディネーター配置を進めるなど、分散型の支援体制づくりが進められている。

次に、小児から成人への移行期医療では、特に重症心身障害児の受入先不足が課題であり、家族の心理的不安も大きいことが指摘された。急激な移行は困難であるため、10歳頃から将来像を共有し、時間をかけて準備を進める必要性が示された。あわせて、成人診療に慣れた訪問診療医をハブとし、小児科医・内科医が早期から連携する体制整備の有効性が提案された。

教育現場では、学校看護師の直接雇用のみでは人材確保や定着が難しいという課題が共有された。医療機関からの委託方式や巡回看護師配置などの工夫に加え、潜在看護師等を登録し市町村とマッチングする「学校看護師登録制度」の導入事例が紹介され、安定確保と自治体負担軽減につながる好事例として関心が寄せられた。

その他、居宅介護の支給決定に関する東京都の新通知が共有され、本人の状態のみならず、保護者の就労や介護負担軽減といった事情を踏まえ、6時間を超える支給も検討対象となることが明記された点が確認された。

3. 次回開催について

- 第6回(対面会議): 2026年11月13日(金)12時頃集合~午後にかけて情報共有会。徳島赤十字ひのみね医療療育センターにて開催。
- 第7回(オンライン会議): 2027年2月頃、開始時間を前倒し「14時開始」でZoom開催予定。

医療的ケア児等コーディネーター支援協会 中国・四国ブロック研修交流会

テーマ:社会的養護

「医療的ケアの必要なこどもの社会的養護～現状と課題～」

開催日時:2026年3月7日(土)13時00分～16時30分

開催場所:広島県 RCC文化センター

(受付業務、会場片付け等運営手伝いを行った)

【プログラム】

13:00～13:05 開会

13:05～14:05 基調講演「医療的ケアの必要なこどもの社会的養護～現状と課題」

九州大学病院 国立大学法人 九州大学

環境発達医学研究センター特任准教授 落合正行 先生

14:05～14:35 調査研究チームからのコメント

「医療的ケア児の社会的入院を解消するための調査研究」

医療法人稲生会 理事長/生涯医療クリニックさっぽろ 院長

土畠智幸 先生

社会福祉法人ワナーホーム 統括施設長 大久保夏樹 氏

14:35～14:50 質疑応答

14:50～15:00 休憩

15:00～16:30 医療的ケア児支援センター活動報告(各センター15分)

(中四国ブロック会員センター4ヶ所(山口、広島、鳥取、香川) ※岡山、高知、愛媛は
非会員、島根は資料配布、徳島は欠席・動画のみ)

16:30 閉会

医療的ケア児の社会的養護は、受け入れ施設や里親制度、医療提供体制など複数の制度が関わる重要な課題である。本研修では、医療的ケア児の社会的養護の現状と制度的課題、各地域における支援体制の取組について共有が行われた。

2026年3月7日(土)に、「医療的ケア児等コーディネーター支援協会 中国・四国ブロック研修交流会」が開催され、運営手伝いと研修受講を行った。医療的ケア児等コーディネーター支援協会に所属するセンターのうち、中四国ブロックおよび医療的ケア児支援者を対象とした研修であった。

あらかじめ中四国ブロックに割り振られたテーマ「社会養護」に沿って、基調講演や調査研究チームからの報告がなされた。落合正行先生の基調講演では、医療的ケア児は、家庭の養育が困難な場合でも里親・施設などの社会的養護の受け入れ先が極めて限られていることや、医療・福祉・地域が連携し、社会の中で育ち生活できる仕組みの整備が求められていることなどが発表された。土畠智幸先生の報告では、里親家庭で生活する医療的ケア児について、法律上、里親は「家族」とみなされないため日常的な医療的ケアの実施が認められていないという課題が示された。そのため、有資格者を里親にする、児が入院中から養子縁組を行う、などによって養育を実現している事例も紹介された。その後質疑応答にて、社会的養護を要する医療的

ケア児の各地での実情や対応方法等について情報交換が行われた後に、各センターの活動報告が行われた。

本研修を通して、社会的養護を必要とする医療的ケア児の支援には、医療・福祉・地域が連携した受け入れ体制の整備が重要であることを改めて認識した。

